



SESERAGI—MISHIMA ROTARY CLUB WEEKLY REPORT

クラブ
週報

2014～2015年度 RI会長 ゲイリー C. K. ホアン
RIテーマ ロータリーに輝きを

クラブテーマ「感謝の心で出席しよう」会長 矢岸貞夫

副会長 鈴木政則 幹事 小林 勝

第1216回例会 2015.2. 6(金)晴

司会:岡 良森君 指揮:山口辰哉君
ロータリーソング「奉仕の理想」

事務所 三島市中央町4-9 小野住環中央町ビル2F
TEL.055-976-6351 FAX.055-976-6352

<http://www.seseragi-mishima-rc.gr.jp>

せせらぎ三島ロータリークラブ

検索

例会場 ブケ東海三島

TEL.055-984-0120

毎週金曜日 第1・第3 夜間例会

会長挨拶

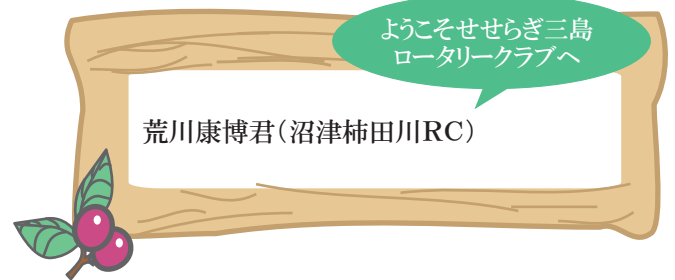
会長 矢岸貞夫君

皆さん今晚は、先週のクラブフォーラムではタイ放置自転車贈呈事業について審議していただきまして有難うございます。私共せせらぎ三島ロータリークラブでは、3年を一区切りとして事業を継続するか、終了するかを会員の意思のもと決定しております。今までにこの事業に携わった会員の皆さまから意見をいただき、次年度以降もタイ放置自転車贈呈を実施する事になりました。次年度以降も国際奉仕の委員長ならびに関係ある会員の皆さん宜しくお願い致します。

また、先週に続き今週もクラブフォーラムです、議題は「3年後の自分への手紙」事業の見直しについてです。この事業については、今年度で一度区切りをつけて次年度以降も継続して行くかどうか、この事業に変わる事業があるかどうか等を次年度の社会奉仕委員会に任せて委員会の事業として事業計画に上げれば良いと思います。この事業について新会員の皆さまに経緯を説明いたします。

「3年後の自分への手紙」事業とは、せせらぎ三島ロータリークラブでは2009年創立20周年記念事業として「3年後の自分への手紙」を立ち上げました。このプログラムは、三島市、函南町に在住する小学校5年生の児童に3年後の自分宛に手紙を書いてもらい、3年間当クラブで保管した後、該当児童の中学校2年生の夏休みに送付するというものです。その目的は、中学2年生の{何かと不安定な時期}に3年前に書いた自分からの手紙を受け取る事で、将来設計の一助となるだろうとの考えで始めた活動であります。発案のきっかけとしては、当時プロゴルファーの石川僚選手が大活躍しており、その石川選手の幼少時代の過ごし方が大変話題になっておりました。中でも石川選手は、小学校6年生の時に書いた作文「将来の自分」の中で「2年後には日本アマ出場、4年後には日本アマ優勝、6年後には日本オープン優勝等々」将来の夢を年齢別に細かく記し、その目標を一つずつ達成している最中でした。他方中学2年生という年頃は思春期にさしかかり何かと将来設計に於いて迷いの生じる世代であると同時に生活面におきましても若干不安定な時期でもあると言われております。当クラブでは、創立当初より「青少年育成活動」を積極的に進めてきております。以上のような内容です。

今日のフォーラムでは、今まで関係ある会員の皆さまに話しをしていただきましたので時間が足りず、次週渡邊さんの卓話時間を変更して「3年後の自分への手紙」事業について審議して頂きたいと思っております。どうぞ宜しくお願い致します。



出席報告

	出席総数	出席率	メイクアップ	修正出席率
前々回	29/34	85.29%	34/34	100%
今回	28/34	82.35%	会員総数	38名

欠席者

あなたが見えなくて残念でした。

内田君、加藤君、杉山(順)君、杉山(隆)君、仲原君、望月君

おめでとう

会員誕生日 2月19日 中村 徹君
入会記念日 2月14日 服部光弥君

今日の料理



クラブフォーラム

「三年後の自分への手紙」事業について

渡邊照芳君

「三年後の自分への手紙」を始めてから6年経ちました。私が社会奉仕委員長で、石井君が副委員長、そして岡君が、委員の時でしたので、その時の経緯を少しお話させていただきます。

前年度より20周年記念事業として、引き継ぎました。まず三島市・函南町の小学校へ出向き市・町の小学5年生を、対象に自分の将来の夢を作文に書いてもらいそれを3年後の中学2年の時に自分に、届くという企画であります。中学2年というのは、高校入試を控え、これからどの学校へいくか、また自分の希望と現実とのギャップを思い知る大事な時期でもあります。その時3年前に書いた手紙が届く、そこで今一度自分の将来夢を考えてもらいたいという企画で、ありました。しかし当時の先生方の中には、子供達に負担が掛かると言うことで2の足をふむ先生もおりましたが、校長会にかけていただき、又 保護者の皆様に理解をいただき事業が始まりました。そして3年後最初に出した手紙が子供達に届きました。その中にアンケートを入れ、感想文を送っていただきました。感想文の内容は省略させていただきますが、非常に感動しました。大変でしたが、私は、この事業を始めて良かったと思いました。この事業は、新年度が始まって、すぐに準備に取り掛からないと間に合わないそのため、委員の皆さんには、かなり負担が、かかる事業だと思います。今後続けて行くかどうか、十分会員の皆様で議論をしていただき決めていただきたいと思っています。

石井司人君

継続事業三年後の自分への手紙について、総論は時の委員長であります渡邊氏から話がありましたとおりであります。私からは各論というような部分をお話させていただきます。

実行に移すという中で、大きな障害があることに気がつきました。それは、RCの切り替えが7月からでありこの事業の始まりと、学校への対応が時間的に大変窮屈でした。とりわけ学校への依頼を通じて学校長宛、担任の先生宛、保護者宛と三通の依頼文が必要でした。また夏休みまでにマニュアルの作成をしなくてはならないことが浮かび上がってきました。岡氏と私でマニュアル作成を担当いたしましたが、夏休みを利用しての作文ですので大変窮屈な日程でした。今年七年目に入るこの事業でございますが、同じようなことが繰り返されると思います。

この続きの話は岡氏に引き継ぎます。

岡 良森君

本プログラムの実施にあたっての苦労話は、先輩が語られましたので割愛しますが、7年目にあたり思うことは、当クラブのオリジナルともいえるアンケートはがきの同封活動がとてもすばらしかったということです。アンケートはがきの返戻率は、約1割程度であります。その多くが、本プログラムを評価していただいているということです。受け取っ

た本人のみならず家族の方からの評価いただいたことは意義深いことだと感じています。

実施にあたっての個々の問題点は確かにありますが、担当委員の増加や、例会の運営の工夫等により改善する方向で対処できるように思います。

私が思うこのプログラムの目標は、対象生徒すべてが満足するようなものを実施するのでは無く、たったひとりでも、このプログラムの実施により、将来設計の軌道修正ができるように支援することだと思います。青少年育成に力を入れている当クラブの活動として誇らしい事業と考えております。



スマイルボックス

矢岸貞夫君:先週に引き続き今週もクラブフォーラムです。議題は「3年後の自分への手紙」です。よろしく願いいたします。

石井邦夫君:ブケ東海でテーブル会を開催させて頂きました。ありがとうございました。

勝又佳員君:テーブル会、打合せが入り途中出席でした。すみませんでした。

篠木喜世君:来週2月14日のIMはゆうゆうホールでの音楽劇「その後のオイディプス」に出演の為欠席致します。なぜか総菜屋のおばさん役で夫オカズを尻に敷く役です。本当は主人を尻になんか敷いてませんが・・・(汗)

兵藤弘昭君:2週連続お休み致しまして失礼しました。おわびスマイルです。

